

# 令和4年度宮崎県外部評価資料

## プロジェクト1

未来に繋ぐ“持続的な次世代型水田農業”の実現  
(対象期間: R3~R7)

## プロジェクト2

西諸県地域の特色を活かした花き産地振興  
(対象期間: R3~R7)

令和4年10月27日

西諸県農業改良普及センター

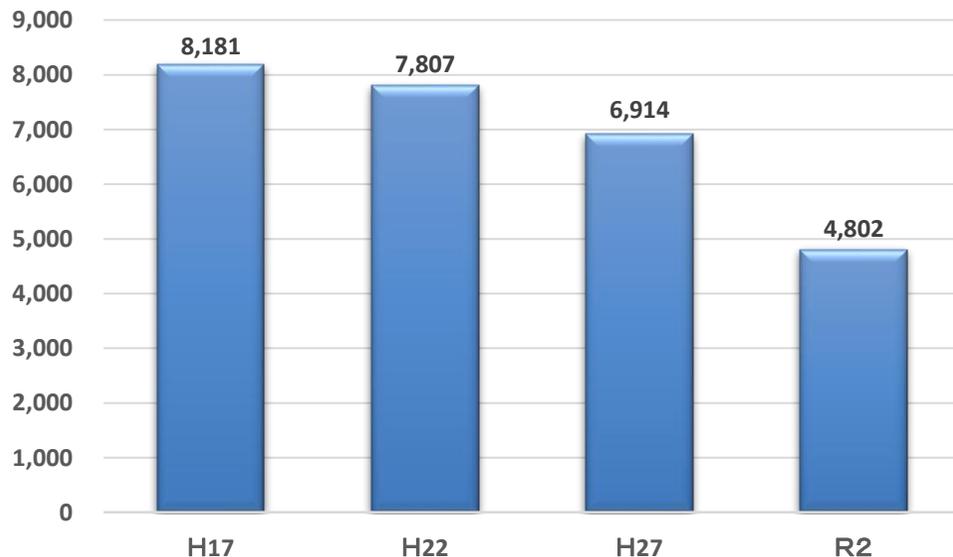
# 目次

I	地域農業の概要	.....	P1
II	普及センター組織図	.....	P2
III	プロジェクト一覧	.....	P3
IV	プロジェクト設定の手順	.....	P5
V	プロジェクト1	.....	P6
	① 普及計画の概要		
	② 主な取組内容と成果		
	③ 今後の課題と対応方向		
VI	プロジェクト2	.....	P18
	① 普及計画の概要		
	② 主な取組内容と成果		
	③ 今後の課題と対応方向		

# I 地域農業の概要

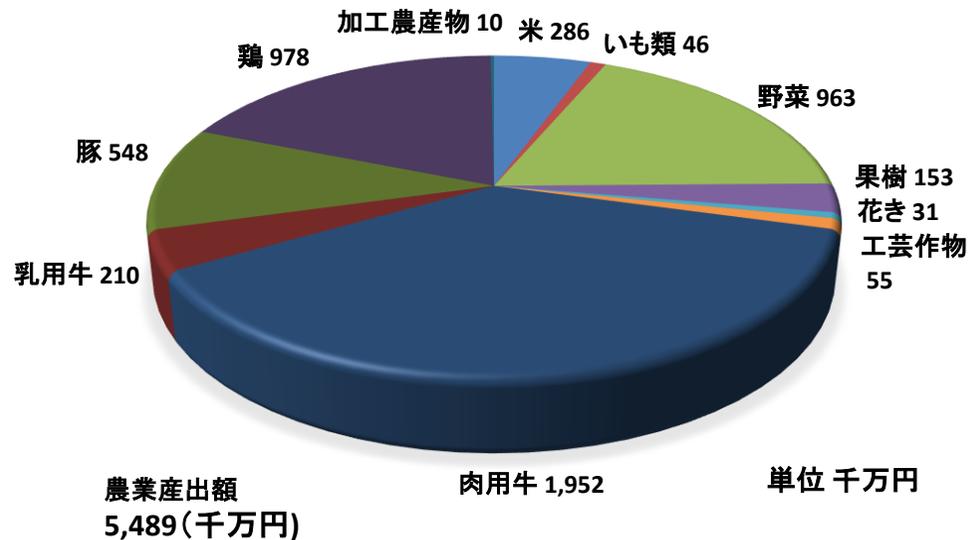
- 県の南西部に位置し、北は九州山地を持って熊本県、西は霧島連山をもって鹿児島県と接しており中山間地域も多い。
- 管内の令和2年の基幹的農業従事者数は、**4,802人**で平成27年に比べ**2,112人**減少した。
- 平均年齢は、平成27年に比べ**1.1歳**上昇して**67.9歳**と高齢化が進んでいる。
- 令和2年の農業産出額は**約550億円**で内訳は**耕種部門159億円**、**畜産部門は371億円**で全体の67.5%を占める。
- 担い手の中心となる認定農業者数は**減少傾向**にあり、令和4年年3月末現在で**1,194経営体**となっている。
- 新規就農者については、令和3年までの過去5年間に於いて、親元就農が**13名～29名/年**、新規参入が**1～2名/年**、法人就農が**20名～35名/年**で推移している。

管内の基幹的農業従事者数の推移



資料:農林業センサス

管内の農業産出額(R2年)



資料:農林水産省令和2年  
市町村別農業産出額(推計) 1

## II 西諸県農業改良普及センター組織図

西諸県農林振興局長

独立庁舎

振興局次長  
兼 普及センター所長

○普及センター  
職員数 22名  
(庶務1名含む)

○特徴  
・県内では中規模。  
・普及経験3年未満7名

○地域支援課 課長  
・地域企画担当 3名  
・地域振興担当 4名

○農業経営課 課長  
・土地利用営農担当 4名  
・農畜産経営担当 4名  
・園芸経営担当 4名

### Ⅲ プロジェクト一覧(R3～R7)

	プロジェクト名	主な活動内容	主担当	
1	“農の魅力 を産み出す” 人材の育成 と支援体制 の強化	(総1)持続可能な農業生産 の実現に向けたアグリプレ イヤーの確保・育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就農相談から就農定着まで一貫した新規就農 者の確保・育成</li> <li>・SAP会員の組織活動支援</li> <li>・認定農業者等多様な担い手の経営発展支援</li> </ul>	地域振興 地域企画
2		(専1)魅力的な子牛産地を 支える実力ある肉用牛繁殖 経営の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肉用牛繁殖経営の向上支援</li> <li>・新規就農者受入れ体制整備と早期定着支援</li> </ul>	農畜産
3	“農の魅力 を届ける”み やざきアグリ フューチャー の実現	(専2)スマート生産基盤の確 立による収益性の高い果菜 類産地の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設果菜類の生産性向上に向けた取組支援</li> <li>・新規就農者受入れ体制整備と早期定着支援</li> </ul>	園芸
4		(専3)魅力ある西諸果樹産 地の維持・発展	<ul style="list-style-type: none"> <li>・果樹の生産性向上による経営力強化支援</li> <li>・新規就農者受入れ体制整備と早期定着支援</li> </ul>	園芸
5	(専5)20年後も生き残る西諸 茶産地の再編	<ul style="list-style-type: none"> <li>・茶の効率化、共同化による産地支援</li> <li>・茶経営の発展支援</li> </ul>	農畜産	
6	(総2)未来に繋ぐ”持続的な 次世代型水田農業“の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スマート農業を活用した水田営農技術の確立 支援</li> <li>・水田の高度利用(水田フル活用)と収益性の高 い水田営農支援</li> </ul>	地域企画 農畜産	

# Ⅲ プロジェクト一覧(R3～R7)

	プロジェクト名	主な活動内容	主担当	
7	“農の魅力を届ける”みやざきアグリフードチェーンの実現	(総3)にしまろの畑地を生かした収益性の高い加工/業務用や再産地の確立	・加工業務用野菜の安定・計画的出荷支援 ・さといも、甘藷の種苗供給体制支援 ・法人連携及び畑かん利用による経営の安定化支援	土地利用 地域振興
8		(専4)西諸県地域の特色を活かした花き産地振興	・キク、ラナンキュラス、キイチゴの生産性向上に向けた取組を支援	園芸
9		(専1) 再掲	再掲	
10		(専2) 再掲	再掲	
11		(専3) 再掲	再掲	
12		(専5)再掲	再掲	
13	“農の魅力を支える”力強い農業・農村の実現	(総2)再掲	再掲	
14				

\* (総):総合プロジェクト (専):専門プロジェクト

# IV プロジェクト設定の手順

## 普及事業の計画・実績検討に係る組織

○普及事業推進協議会  
(各市町、農業委員会、  
JA、NOSAI、県)

+

○農業経営指導士  
(生産者代表)

普及事業推進協議会

4月：幹事会、5月：総会 で普及実績・計画説明

10月下旬 普及計画の中間検討会  
(計画の進捗状況と問題点、課題の整理)

11月 先進地事例調査(普及事業推進協議会  
農業経営指導士会合同)

11月～12月 次年度普及計画に向けた課題の見直し

12～3月  
普及計画(案)作成(農業普及技術課との協議・専技との調整)

2月 農業改良普及事業推進協議会・農業経営指導士会合同会議  
○普及実績・次年度計画の説明



普及事業推進協議会総会

# V プロジェクト1

未来に繋ぐ

“持続的な次世代型水田農業”の実現

(対象期間: R3~R7)

# V-① 普及計画の概要

## 現状

- 管内農業者の平均年齢 67.9歳
- 水稲作業受託経営体の減少  
オペレーターの高齢化及び不足  
大規模面積を受託する個人・法人の農業者が点在
- 水田のほ場区画が小さい
- 水田利用率 130.6%

## 課題

- 水稲作業受託経営体の経営力の強化、オペレーターの確保
- 管理作業(田植え、畦畔管理、施肥、防除、水管理)の省力化、作業効率の向上、生産コストの低減
- 水田のフル活用による収益力の向上

## 目指すべき姿

将来にわたり水田営農経営体が水田農業を持続し、地域の農地を維持している

- 運営力や経営力のある経営体が持続的に水田農業を展開している
- スマート農業技術の導入による規模拡大や主食用米を核とした水田フル活用が実現している
- 農地の集積・集約化やゾーニングにより、産地を支える生産力の維持・向上が図られている

## R7到達目標

**水田利用率の向上 130.6%(直近3力年平均) → 135.8%(R7)**

※水田利用率…作付延べ面積(水稲+水田利用基幹作物+二毛作)を  
国統計データ「田本地面積」で割ったもの

H29 6,988ha/5,293ha=132.0%

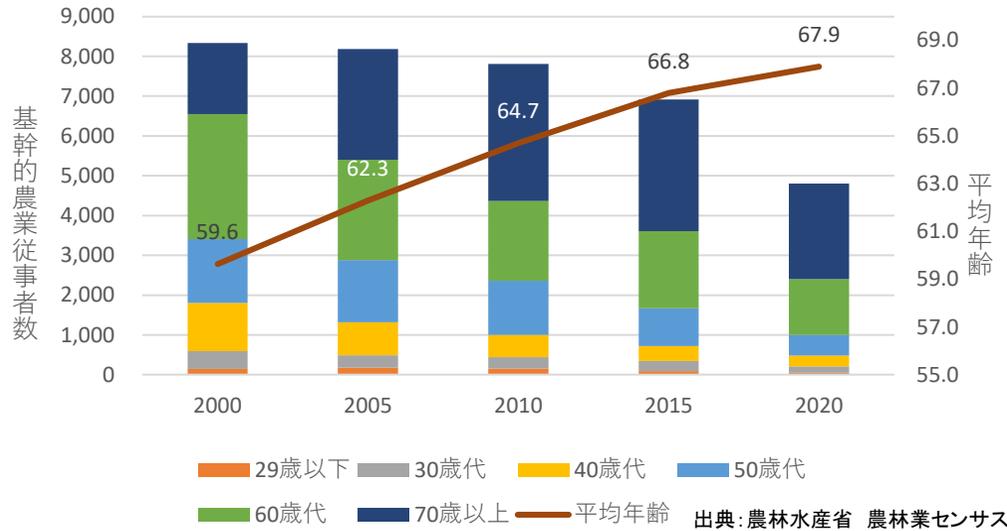
H30 6,849ha/5,291ha=129.4%

R1 6,834ha/5,249ha=130.2%

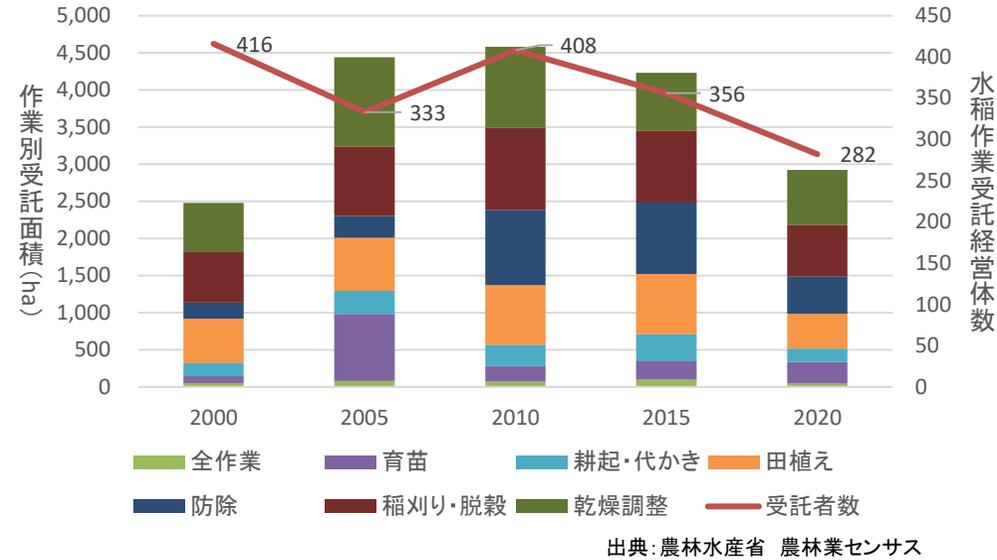


# 参考 地域の概要

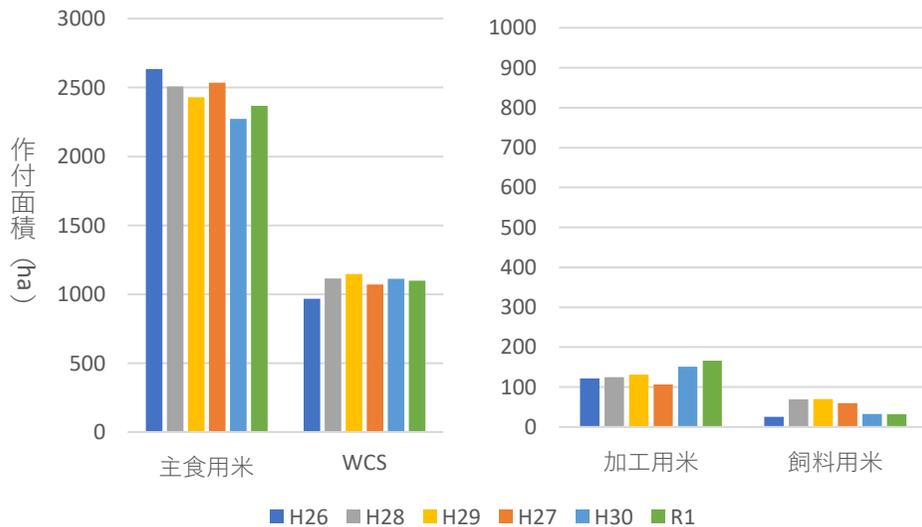
## 管内 平均年齢・年齢別基幹的従事者数



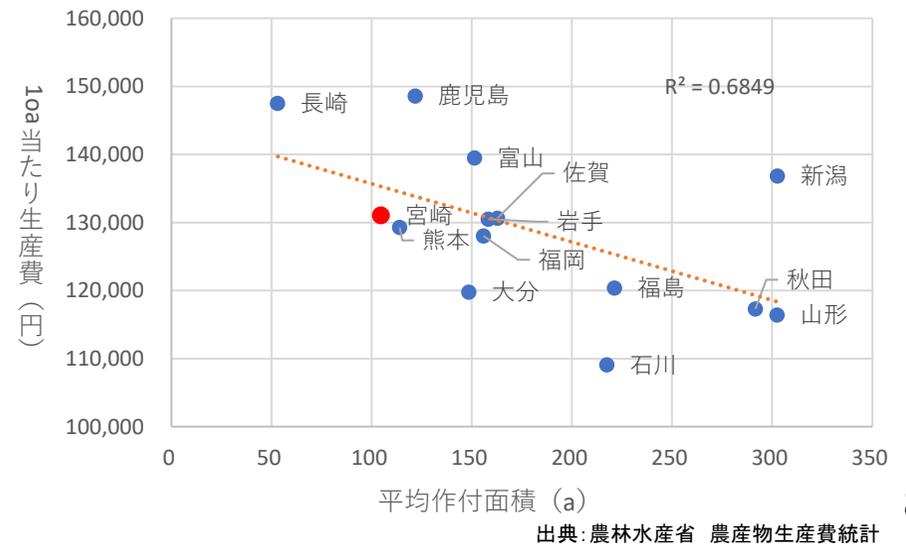
## 管内 水稲作業受託経営体数及び受託面積



## 管内 水稲作付け面積の推移



## 【参考】令和2年産生産費・平均作付面積





# V-② 主な取組と現在の状況

普及課題： 更なる発展を目指す水田営農経営体の運営及び経営の強化

## 1 重点対象集団

地域モデルとなる水田営農経営体(水稲を主業とする農業法人等)  
(9法人・戸)

## 2 主な取組(予定)

### 令和3年度

- 市町、JA等の関係機関による水田農業の活性化についての協議体(次世代型水田農業推進会議)を設置した。
- 水田営農経営体の運営に関する調査を行い、課題を把握した。
- 労務環境改善、スマート農業の活用に関する研修会を開催した。
- 水田営農経営体を集めた意見交換会を開催し、経営上の課題について共有を図った。

### 現在の状況(令和4年4月から現在まで)

- 次世代型水田農業推進会議を開催し、水田を活用した地域振興策(作付品目、労働力対策、農地効率化等)の検討を開始した。
- 効率的な営農管理の構築に向け、インターネット電子地図とほ場データを関連付けてほ場を管理する手法について検討している。

### 令和5年度

- 次世代型水田農業推進会議での協議の継続
- 営農管理システムの実証、効果検証

## 3 成果目標の達成状況

営農ビジョンを実践している水田営農経営体数

0法人・戸(R2) → 0法人・戸(R3実績) → 3法人・戸(R7目標)



水田維持に向けた協議をする次世代型水田農業推進会議



水田営農経営体を交えた水田担い手ネットワーク交流会

# 参考：営農管理システムの活用

## 1 営農管理システム

- パソコン・タブレット・スマートフォン等で作業計画・実績を記録
- ほ場管理を電子化
- 機能を絞った安価な製品から、経営最適化に向けた分析機能等を充実した製品まで幅広く存在
  - ・価格帯(目安) 初期費用:無料~10万円 / 利用料:無料~15,000円/月
  - ・主なメーカー((株)省略) 井関農機、NECソリューションイノベータ、クボタ、ソリマチ、ヤンマーアグリジャパン R3年 30社近く



(事例)

属性データを地図上に表示できます

キー項目を指定して圃場を色分けできます

農地の属性データは、画面右側に表示されます。(画面下部にも変更可能)

面積	目標収量	品種
4	928	445.44 はるみ
5	909	436.32 はるみ
6	916	439.68 はるみ
7	932	447.36 はるみ
8	2029	973.92 キヌヒカリ
9	1937	929.76 キヌヒカリ
10	999	479.52 キヌヒカリ
11	900	432 キヌヒカリ
12	957	459.36 キヌヒカリ
13	1628	781.44 キヌヒカリ
14	2026	972.48 キヌヒカリ
15	938	450.24 さとじまん
16	1041	499.68 さとじまん
17	3426	1644.48 さとじまん
18	1243	596.64 さとじまん
19	3877	1860.96 さとじまん
20	1137	545.76 さとじまん
21	1876	900.48 まんげつもち

(出典:全農 営農管理システムZ-GIS)

## 2 導入のメリット

- ほ場位置の見える化
- ほ場や品目ごとの作業実績の見える化
- 記録した情報をもとに**生産コストの見える化**や**栽培計画・方法の改善**、収量予測等に活用可能

システムの活用効果

- ほ場作業の検討による効率化
- ほ場ごとの作業時間、収量、売上から経営改善の方向性検討
- 営農情報の整理、蓄積により次代へのスムーズな引き渡しが可能

# V-② 主な取組と現在の状況

## 普及課題：スマート農業技術の導入による水田営農の省力化

### 1 重点対象集団

水稻を主業とする農業法人等(5法人・戸)

### 2 主な取組(予定)

#### 令和3年度

■省力化技術(畦畔防草シート、水口流し込み防除、自動給水栓、ドローンを用いた防除、高密度播種苗栽培)の展示ほを設置し、効果を検証するとともに普及性について検討した。

■省力化技術の展示結果について、対象集団に対し説明会を開催し、周知した。

#### 現在の状況(令和4年4月から現在まで)

■引き続き、省力化技術(畦畔除草剤処理、ドローンを用いた防除、高密度播種苗栽培)の展示ほを設置し、効果を検証している。

#### 令和5年度

■ドローンを用いた雑草・病害虫の防除体系の検討

■高密度播種苗栽培技術の広域普及の着手、技術フォローアップ

### 3 成果目標の達成状況

省力化技術の導入面積割合

-(R2) → 3.3%(R3実績) → 15.0%(R7目標)



展示ほ(畦畔除草剤)処理状況(6月3日)



展示ほ(高密度播種苗)における技術説明



左:高密度播種苗 右:慣行苗

# 参考：省力化技術の取組

## 畦畔除草剤処理

- 技術の概要
  - ・ザクサ液剤＋ダイロンゾルで、雑草を長期間低密度に抑制

効果：除草回数の削減、労力低減



作業時間比較	除草剤散布	草刈り	合計
除草剤区	2時間	4時間(2回分)	6時間
草刈り区	—	10時間(5回分)	10時間

(単位 円)

コスト比較	人件費	燃料・刃	除草剤	合計
除草剤区	7,500	3,575	2,543	13,618
草刈り区	12,500	4,015	—	16,515

## 高密度播種苗栽培

- 技術の概要
  - ・育苗箱当たりの播種量を多くして育苗

効果：慣行より少ない育苗箱数で、育苗面積削減、労力低減

密播苗と慣行苗（稚苗）の経費および労力の比較



出典：平成25年度 全国システム化研究会（広島県）

R4展示ほ結果	高密度播種苗栽培区	慣行栽培区 (疎植)
育苗箱数	6.8箱	13.6箱

※ 10aあたり

# V-② 主な取組と現在の状況

## 普及課題：水田フル活用による収益力の向上

### 1 重点対象集団

水稲を主業とする農業法人等(5法人・戸)

### 2 主な取組(予定)

#### 令和3年度

- 主食用米以外での水田活用を図るため、飼料用米新品種「みなちから」やオクラの展示ほを設置し、生育調査や収量調査を実施した。
- 稲作後の水田活用を図るため、麦の展示ほを設置し、栽培指導を行うとともに、契約先との現地検討会を行った。

#### 現在の状況(令和4年4月から現在まで)

- 新たな飼料用米多収品種「南海飼190号」の導入に向け展示ほを設置した。
- 麦の安定生産に向け、前作実績検討を行うとともに、契約先を交えた計画検討会を開催した。

#### 令和5年度

- 飼料用米の多収生産技術の実証、定着
- 麦とWCSの二毛作体系の検討
- 早生小麦の栽培適応性の検討、その他新規振興品目の探索

### 3 成果目標の達成状況

二毛作率 56.7%(R2) → 55.7%(R3実績) → 56.7%(R7目標)



多収品種比較 左:南海飼190号、右:ミズホチカラ



麦を活用した開発商品

麦収穫前現地検討会

## プロジェクト全体の到達目標の達成状況

### ○ 水田利用率の向上

直近3カ年平均(基準) 130.6% → R3(実績) 131.0% (R7目標: 135.8%)

# 参考:水田フル活用取組の実績

## 飼料用米

### 「南海飼190号」の特徴

- ・ 晩生の品種
- ・ 稈長が長いが、倒伏無し
- ・ **穂数は少なく大粒**
- ・ いもち病に強い



現地検討会

### R4年の状況

飼料用米 現地試験結果	出穂期	稈長	穂長	穂数	倒伏	いもち
		(cm)	(cm)	(本/m <sup>2</sup> )		
南海飼190号	8月30日	97.0	22.7	230	無	無
ミズホチカラ	8月26日	82.4	21.4	251	無	中

※ 田植え日は6月15日、稈長等の調査日は9月14日

※ 倒伏・いもちは、無・微・少・中・多・甚で評価

## 麦

- ・ 平成30年の硫黄山噴火の影響で開始
- ・ えびの市で、令和2年より、代替品目として二条大麦を栽培し、3年経過
- ・ **3戸で3年連続350kg以上と安定多収**
- ・ R5も同程度の作付面積の予定

### (管内)大麦の栽培の状況

	R2	R3	R4
作付面積	1.6 ha	2.2 ha	2.2 ha
収量	6,975 kg	11,877 kg	8,347 kg
10a当たり反収	435 kg	540 kg	379 kg

※ 基準収量350kg/10a



## V-③ 今後の課題と対応方向

### (令和4年度)

#### 【更なる発展を目指す水田営農経営体の運営及び経営の強化】

- 水田を取り巻く課題の解決に向けての検討が始まった
- 技術員会等の関係組織との役割分担を行いながら、水田を活用した地域振興策を検討中
- 労働力、オペレーター不足による作業の遅延に対応する手段として、営農管理システムの協議を開始

#### 【スマート農業技術の導入による水田営農の省力化】

- 畦畔管理、ドローンを用いた防除、高密度播種苗栽培等の省力化技術の展示ほを設置

#### 【水田フル活用による収益力の向上】

- 飼料用米多収品種の現地展示ほを設置
- 大麦の適期作業及び次年計画に係る検討会を支援

### (令和5年度)

#### 【更なる発展を目指す水田営農経営体の運営及び経営の強化】

- 地域振興策の作成、各技術員会との連携や取組支援体制構築により、水田営農を軸に地域を活性化
- 水田営農経営体の作業の効率化に向けた支援、意見交換会開催による共通課題に対する意識向上により、経営を安定化

#### 【スマート農業技術の導入による水田営農の省力化】

- ドローンによる防除・施肥技術など、スマート農業技術の検討、展示により、省力化を推進
- 高密度播種栽培技術の普及に向けた取組面積拡大、また、高密度播種苗の供給体制構築を支援

#### 【水田フル活用による収益力の向上】

- 飼料用米の多収生産技術の実証、定着により収益性向上を推進
- 麦とWCS、早生小麦と主食用米等の二毛作体系を検討

# 参考: 地域振興策の品目検討

検討品目	現状	課題	備考
飼料用米	多収性品種の展示中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・奨励品種の決定</li> <li>・コスト低減対策</li> <li>・供給体制構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域連携体制の構築に向け、協議を開始</li> </ul>
ミシマサイコ	JA・取扱業者と意見交換を実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栽培期間が2年間</li> <li>・種子の発芽率が低い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小林野尻、高原町で栽培されている</li> <li>・実需者ニーズがある</li> </ul>
小麦	早生種品種の検討中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病気対策、二毛作に対応するためには、5月中に収穫する体系が必要</li> <li>・乾燥、精麦施設が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収穫が梅雨時期にあたると病気、品質の問題がある</li> </ul>
ペカンナッツ	先進事例や試験栽培に向けた情報収集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未収穫期間がある</li> <li>・栽培技術が未確立</li> <li>・販売先、加工施設の確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内数カ所で産地化に向けた動きがある</li> </ul>



ミシマサイコ栽培状況



ペカンナッツ

# V プロジェクト2

西諸県地域の特色を活かした花き産地振興

(対象期間: R3～R7)

# V-① 普及計画の概要

## 現状(R2)

【キク】	11戸、629a、約4,000千本、約2億円
【ラナンキュラス】	10戸、74a、約320千本、約3,000万円
【キイチゴ】	8戸、49a、約130千本、約580万円

## 課題

農家間の技術格差の是正  
良質な球根の安定的な確保  
整枝、病害虫防除の徹底等、基本技術の定着

## 目指すべき姿

【キク】	環境モニタリング装置や自動防除機等が導入され、適正管理が行われているとともに、大規模農家は、農地や労働力が集約され、産地が維持。
【ラナンキュラス】	優良種苗が確保され、高品質・安定生産が実現し、栽培面積が増加。
【キイチゴ】	経験の浅い生産者も栽培暦に準じた適正管理が行われ、高品質なものが安定出荷されるとともに、計画的な新植・改植を実施。

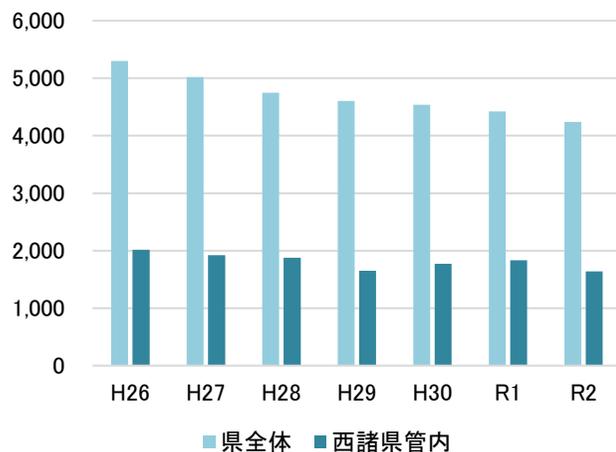
## R7到達目標

【キク】	栽培面積 (R2)629a→(R7)580a	戸数 (R2)11戸→(R7)10戸	出荷量 (R2)4,073千本→(R7)4,083千本
【ラナンキュラス】	栽培面積 (R2)74a→(R7)80a	戸数 (R2)10戸→(R7)10戸	出荷量 (R2)319千本→(R7)400千本
【キイチゴ】	栽培面積 (R2)49a→(R7)75a	戸数 (R2)8戸→(R7)15戸	出荷量 (R2)127千本→(R7)150千本

# 参考：栽培面積と農家戸数

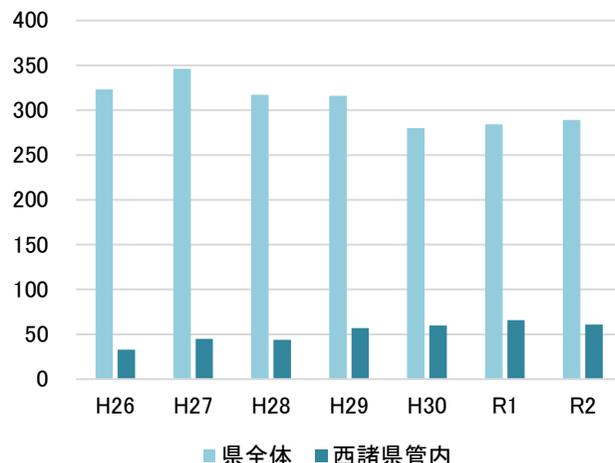
## キク

R2実績(H26対比) 県:80%、西諸県:81%



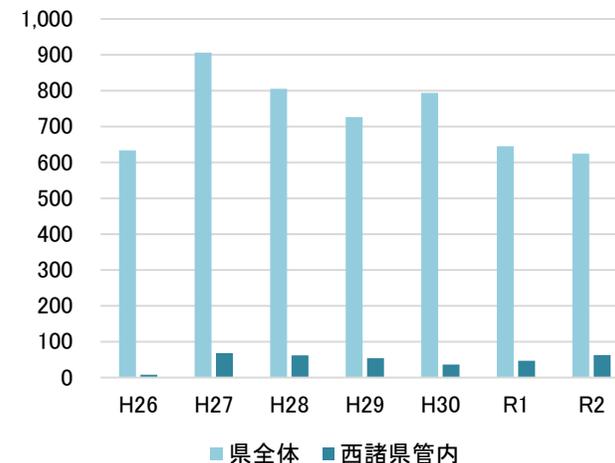
## ラナンキュラス

R2実績(H26対比) 県:89%、西諸県:185%



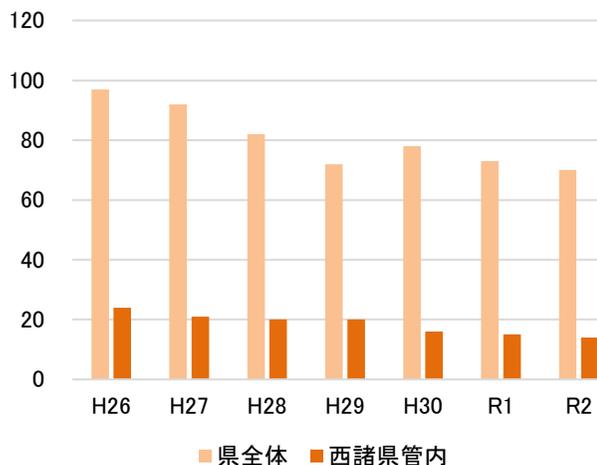
## キイチゴ

R2実績(H26対比) 県:99%、西諸県:788%

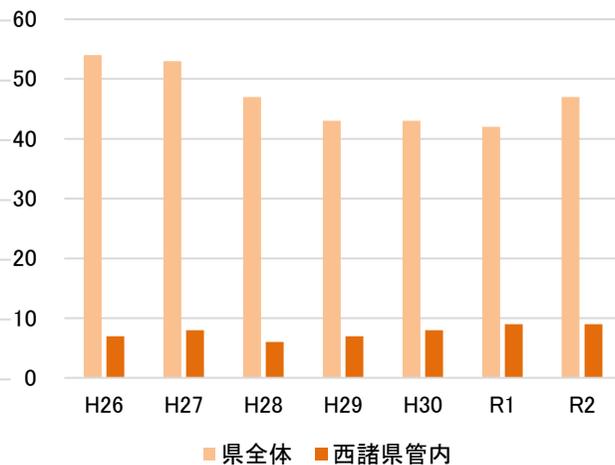


栽培面積 (a)

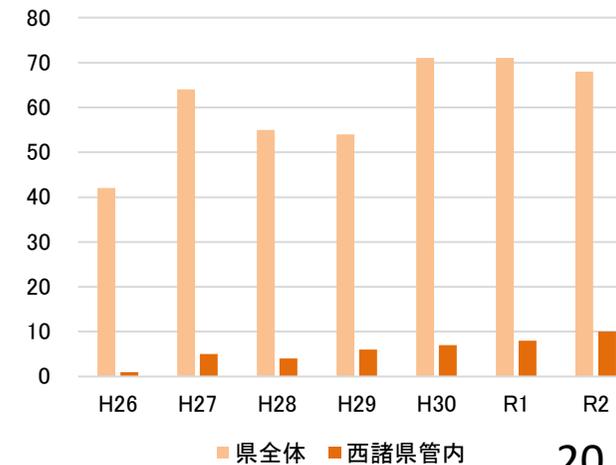
R2実績(H26対比) 県:72%、西諸県:58%



R2実績(H26対比) 県:87%、西諸県:129%



R2実績(H26対比) 県:162%、西諸県:1000%



農家戸数



# V-② 主な取組と現在の状況

## 普及課題：キクの栽培技術向上による高品質化

### 1 重点対象集団

JAこばやし花卉部会(6戸)、高原町花卉部会(4戸)

### 2 主な取組

#### 令和3年度

- キクの栽培農家間の技術格差是正のため、農家毎の目標設定を行う栽培改善チェックシートを作成し、チェックシートに基づいた聞き取り調査を実施。R4年度以降の改善支援の指標とした。

#### 現在の状況(令和4年4月から現在まで)

- チェックシートを基に、個別巡回を通して農家毎の目標設定を実施しながら、集合研修では、病虫害被害対策等、共通する技術支援を実施。

#### 令和5年度

- 農家毎に設定した目標に対して、具体的な実施内容の検討と支援を実施。得られた成果を部会活動を通して普及。

### 3 成果目標の達成状況

白輪ギクの品質目標(秀品率80%、2L率40%)達成農家戸数  
3戸(R2) → 3戸(R3実績) → 8戸(R7目標)



現地講習会の様子



輪ギク

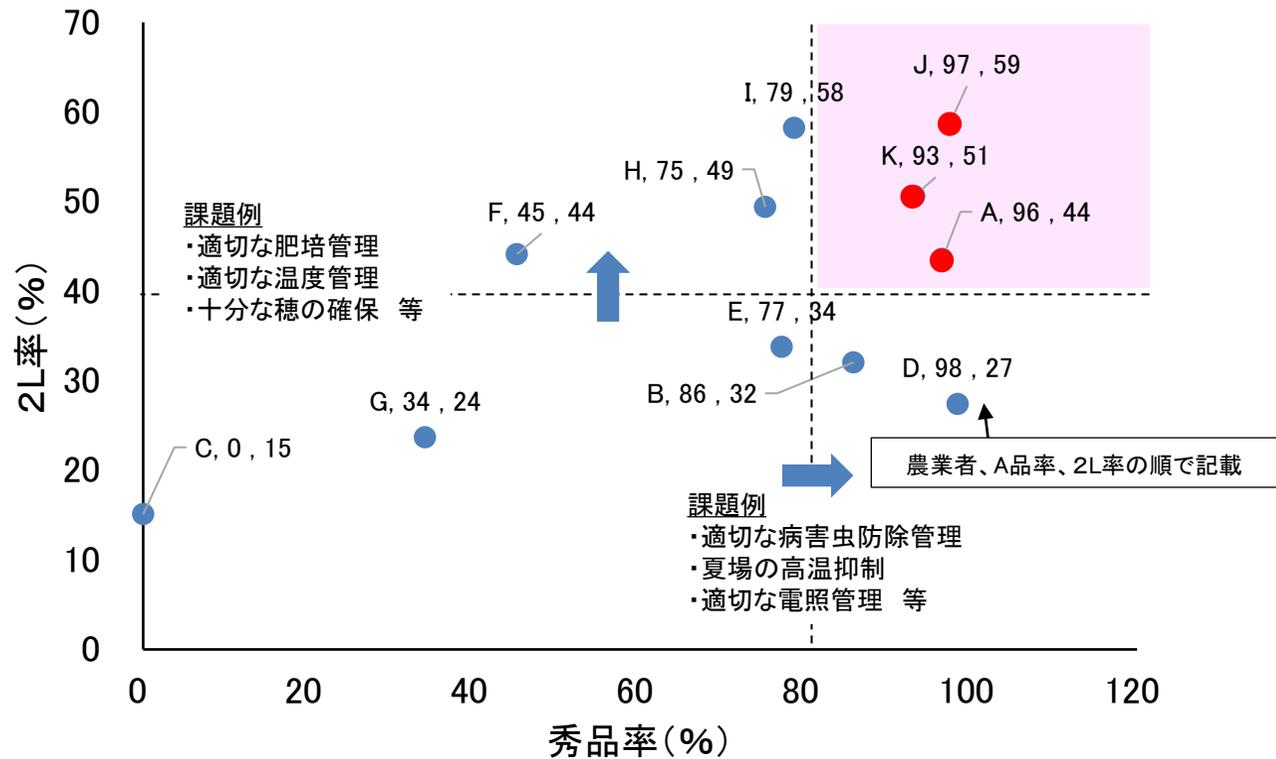
# 参考：白輪ギクの品質目標(秀品率80%、2L率40%)達成農家戸数

白輪ギクの品質目標(秀品率80%、2L率40%)達成農家戸数  
 3戸(R2) → **3戸(R3実績)** → 8戸(R7目標)

→ 個々の課題に対応した目標設定を行い、秀品率・2L率の向上を目指す。

単位：%、a

農業者	A品率	2L率	面積
A	96	44	145
B	86	32	86
C	0	15	12
D	98	27	18
E	77	34	118
F	45	44	52
G	34	24	45
H	75	49	39
I	79	58	39
J	97	59	35
K	93	51	40



# V-② 主な取組と現在の状況

## 普及課題：ラナンキュラスの生産安定化

### 1 重点対象集団

ラナンキュラス生産者 JAこばやし(7戸)、JAえびの市(3戸)

### 2 主な取組

#### 令和3年度

- 講習会や現地巡回を通して、優良種苗(球根)の確保のための技術指導を重点的に実施するとともに、管内の問題点を抽出。

#### 現在の状況(令和4年4月から現在まで)

- 優良種苗確保のため、種苗会社等への情報収集を行うとともに、今シーズンの各種試験を設計し実施準備中。(例:営農振興協議会では、栽培中の球根腐敗を発生させないための展示ほを設置予定)

#### 令和5年度

- 令和4年度に実施した各種試験結果を講習会や現地巡回を通して周知し技術力の向上を図る。

### 3 成果目標の達成状況

10aあたりの収量及び生産額

43千本(R2) → 45.7千本(R3実績) → 50千本(R7目標)

3,377千円(R2) → 3,754千円(R3実績) → 4,000千円(R7目標)



研修会の様子



ラナンキュラス

# 参考：ランキュラス10aあたりの収量及び生産額

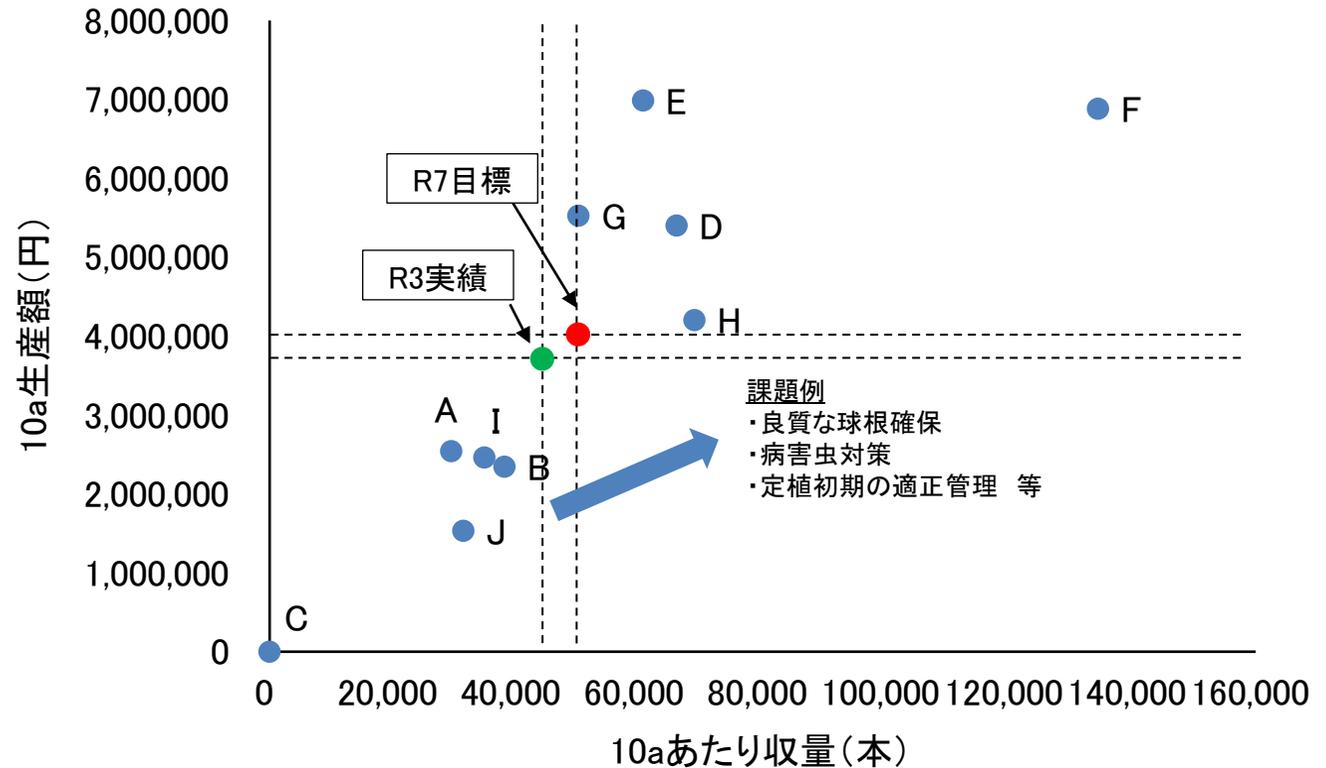
10aあたりの収量及び生産額

43千本(R2) → 45.7千本(R3実績) → 50千本(R7目標)

3,377千円(R2) → 3,754千円(R3実績) → 4,000千円(R7目標)

→ 良質な球根の確保と病害虫対策を講じ、10aあたりの収量・生産額増を目指す。

農業者	面積	10a数量	10a金額
A	13	29,515	2,538,659
B	5	38,150	2,344,832
C	4	0	0
D	9	66,106	5,401,248
E	7	60,636	6,984,076
F	10	134,492	6,880,059
G	4	50,160	5,522,428
H	7	68,990	4,200,334
I	9	34,883	2,460,061
J	3	31,467	1,531,330



# V-② 主な取組と現在の状況

## 普及課題：キイチゴの産地確立

### 1 重点対象集団

JAえびの市キイチゴ生産者グループ(8戸)

### 2 主な取組

#### 令和3年度

■JAとともに栽培暦及び防除暦を改訂し、経験の浅い農業者を中心に、栽培講習会や現地巡回を通して基本技術の定着を図った。また、生産性を維持するため、計画的な改植を推進。

#### 現在の状況(令和4年4月から現在まで)

■元肥の施肥試験を実施し、当地域の基本技術を検討。

#### 令和5年度

■引き続き基本技術の試験を行い、講習会や現地巡回において技術指導を行い経験の浅い農業者でも定着する品目として育成。

### 3 成果目標の達成状況

栽培面積

49a(R2) → 60a(R3実績) → 75a(R7目標)



研修会の様子



技術員会では場巡回の様子

## プロジェクト全体の到達目標の達成状況

### 【キク】

白輪ギクの品質目標(秀品率80%、2L率40%)達成農家戸数

R2(基準):3戸

R3(実績):3戸

R7(目標):8戸

### 【ラナンキュラス】

10aあたりの収量及び生産額

R2(基準):43.0千本、3,377千円

R3(実績):45.7千本、3,754千円

R7(目標):50.0千本、4,000千円

### 【キイチゴ】

栽培面積

R2(基準):49a

R3(実績):60a

R7(目標):75a

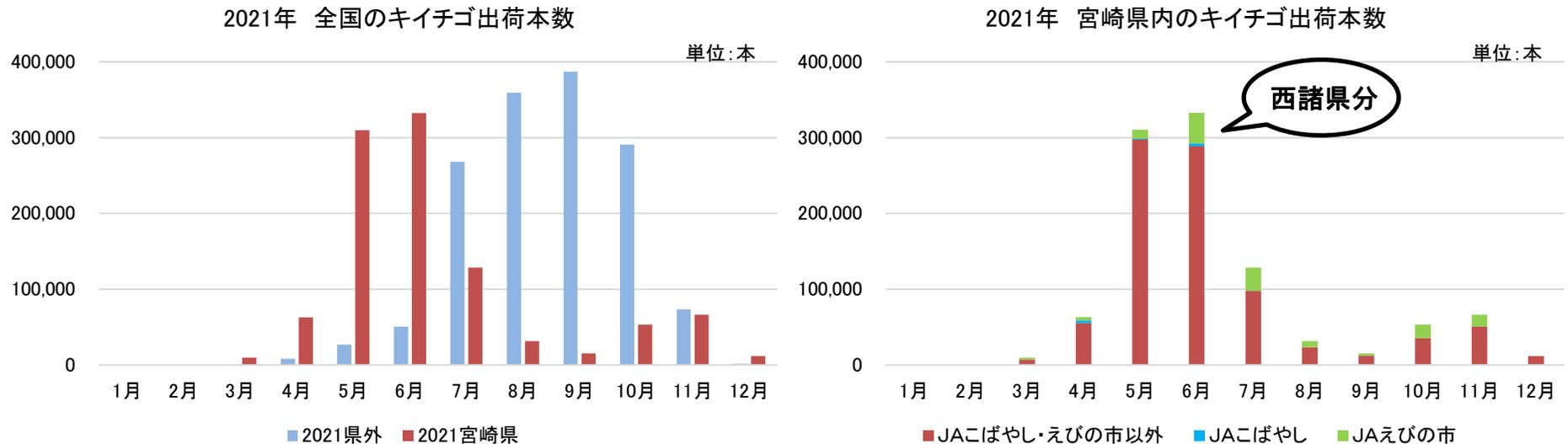
# 参考:キイチゴの出荷実績(R3)

栽培面積

49a(R2) → 60a(R3実績) → 75a(R7目標)

→ 基本技術の習得を支援し、経験の浅い農業者も定着する品目として育成する。

宮崎の出荷量だけを見ると



県外産地の年間出荷量は約150万本、宮崎県の出荷量は約100万本

北海道等の県外産地と、リレー出荷に取り組んでいるが、宮崎の供給量はまだ足りない状況。

## V-③ 今後の課題と対応方向

### (令和4年度)

#### 【キク】

- ・ 個別巡回を通じた各農家の目標を設定。
- ・ 病害虫対策等、品質向上対策を講じつつ、保温資材の検討やハウス内の環境データを活用した省エネ対策の実施。

#### 【ランキュラス】

- ・ 10月中旬以降の定植直後の初期生育の技術支援。
- ・ 病害虫対策を講じながら切り花の出荷本数向上を支援。
- ・ 良質な球根確保。

#### 【キイチゴ】

- ・ 来年2月に技術研修会を予定。
- ・ 基本技術と最大の需要期である母の日出荷に向けた技術支援により安定出荷を実現。

### (令和5年度)

#### 【キク】

- ・ 農業者個々で設定した目標に向けた技術支援で、品質・出荷数量の向上。
- ・ 燃油等のコストが上昇する中、技術と経営の両輪で支援し経営安定を実現。

#### 【ランキュラス】

- ・ 生産性向上のためには優良種苗の確保が必須条件となるため、球根の自家養成技術支援を強化する。

#### 【キイチゴ】

- ・ 定期的な改植の推進や病害虫防除等の基本技術の励行を推進。
- ・ 農業者の定着と産地化を図る。